

# ニューズレター No.14

日本リメディアル教育学会 (JADE)

<http://www.remedial.jp/> 発行人 小野博

2008 (平成 20) 年 3 月 31 日発行

今号は印刷版を提供できるので、過去の PDF 版のニューズレターでお伝えした学会行事予定についての連絡をまとめてお送りします。

## ●学会誌関係

3 月「リメディアル研究」第 3 巻第 1 号を刊行。  
9 月「リメディアル研究」第 3 巻第 2 号を刊行予定。  
年 2 回発行であり、原稿は常時受け付けています。  
投稿原稿の名称やページ数の変更があります。

投稿原稿種別	ページ数
論文 (研究および実践)	6 から 8 頁
研究ノート	4 から 6 頁
教材解説	2 から 4 頁
会員の本紹介	1 頁

原稿の刷りあがり、MS WORD などのワープロソフトでは、プリンターの機種に依存するので、投稿者が PDF ファイルにして提出してください。

投稿者が、受理された後の自分の原稿がどのような過程にあるのかを確認したい場合は、Web 上で原稿審査過程の確認ができます。

原稿は随時受付しています。締め切りはありません。プールしてある原稿から順に掲載します。

編集委員会は、9 月の発行に向けて努めています。特集では「大学での入学前教育」を予定しています。論文等の原稿の投稿も活発ですが、投稿規程を守らない原稿が多くて困っております。訂正をお願いする指摘のメールを一人に対して多い時で 10 回も出さなければならない時があります。  
<http://www.remedial.jp/journal.html>にある「投稿規程」、「投稿原稿表紙」、「投稿原稿割付見本」を参照されての投稿をお願いします。また、依頼された方は、「依頼原稿表紙」、「依頼原稿割付見本」をご覧になっての提出をお願いします。

## ●第 4 回全国大会関係

(詳しくは別紙参照)

5 月 20 日：応募の申し込み締め切り

学会ホームページ上のお申し込みフォームにて、お申し込みください。内容と学会費納入について審査をします。4 月末日に平成 20 年度までの学会費納入がない場合は、発表資格がありません。審査結果は、1 週間でお知らせします。使用可能機器は発表者が持ち込んだ PC だけです。

6 月 17 日：予稿集掲載の発表原稿締め切り

A 4 サイズで 2 頁の原稿をそのまま写真製版できる状態でお送りください。今回は、予稿集を大会前に発送します。締め切りは厳守してください。

7 月 17 日：予稿集の発送

学会に登録された住所宛に、大会前に予稿集を発送します。平成 19 年以降の学会費納入がない会員には、配送されません。

8 月 11～13 日：関東学院大学関内メディアセンターを会場として開催します。このセンター

(<http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/modules/media7/>) は、JR 京浜東北線関内駅など 4 駅が利用でき、いずれも駅より 5 分の便利な場所にあります。また、中華街、伊勢佐木町、山下公園など横浜の観光スポットが近くにあります。

## ●ハワイでの国際学会関係

(詳しくは別紙参照)

5 月 12 日：参加一次登録

(バスの送り迎えがあるホテルを確保したい人)

6 月 20 日：参加最終登録締め切り

8 月 16 日：発表要旨提出締切

9 月 19 日、20 日

会場：ハワイ大学カピオラニ校

大会テーマ：「リメディアル教育の環太平洋における国際協力の活性化」

### ・研究発表の募集

(英語での発表になります)

## ・日米合同シンポジウムを実施

母語教育分野・理科教育分野など

このシンポジウムなどを通して、日米のリメディアル教育の類似性や差異などを認識し、今後の合同研究の方向性を探ります。

## ・大会参加資格

日本リメディアル教育学会の会員であり、2008年度までの学会費が納入済みの方。非会員及び当日会員の参加はありません。

## ・大会参加費（旅費等は除く）

8000円（2回のパーティー代、1回の朝食、昼食代、予稿集代、指定のホテルから会場までのバス代等を含みます）

・学会参加ツアー：9月17日～19日の成田発から21日～23日帰国を考慮した2～3種類の費用が合理的なツアープランを今後のニューズレターでご呈示します。

・さらなる友好関係に向けて：JADEとNADEの学会提携の調印に向けて折衝します。

## ●学会費納入・所属等の変更について

学会員の学会費納入情報は封筒の宛名ラベルに記載されています。2007年度と2006年度の学会費が納入済みと記載されている方は、2008年度の会費を納入してください。不足の情報が記載されている方は、2008年度と不足の年度の会費を納入してください。1年分の学会費は4000円です。同封の払込取扱票にて、4月末日までの納入をお願いします。3年間、学会費の納入がない場合は、学会員の身分が剥奪されます。再入会を希望される場合は、その未納の学会費納入が前提条件となります。

学会員の身分、所属、住所等の変更がありました場合は、ono3@nime.ac.jpにまで、メールで変更をお知らせください。

また、退会される場合は、退会希望年度の3月末日までに上記のアドレスにご通知ください。

## 第3回全国大会参加記

第3回全国大会は30日午後、会場は二日市温泉の大丸別荘で「ティーチ・イン」で幕を開けました。そこでは、「学内をまとめるための知恵と教員への意識改革の方法」について講師および参加者が相互に意見を交換する形で進められました。

8月31日（金）、9月1日（日）の2日間は、西南学院大学で、約300名の参加がありました。

第1日目午前中には、各先生が教室で実践されている授業を疑似体験できる「デモ授業」が行われ、会場に入りきれないほどの人数の参加者が集まりました。学生役になった参加者からは「学生の気持ちになって授業を考えることができた」などの感想も聞かれました。午後は、ハワイ大学のKristine Korey-Smith先生による招待講演、杉並区和田中学校校長の藤原和博先生による特別講演、さらに「物理分野におけるリメディアル教育」を考えるシンポジウムⅠが開かれました。子どもたちを引き込む魅力ある授業を具体的にご紹介くださる藤原先生のお話には、聞いている私たちも知らず知らず引き込まれていきました。夕刻から催された懇親会は、140名を超える出席者が集う、実に盛大な会となりました。

第2日目は、「短大における学習支援」「サービスマーケティング」それぞれをテーマにしたミニシンポジウムⅠ・Ⅱ、「日本的初年次教育」をテーマにしたシンポジウムⅡが行われ、それぞれの会場で活発な議論が交わされました。

第1回大会、第2回大会に続いて行われた今大会においては、研究発表、実践報告は60タイトルにおよび、特に各機関でのリメディアル教育の実践例が数多く紹介され、またシンポジウムでは活発な議論が展開されました。専門分野やバックグラウンドは異なっても目的を同じくする参加者が一堂に会し、意見を交わすことのできるこの全国大会は、毎年1回絶対に欠かすことのできない会であると改めて実感いたしました。

（松本歯科大学 瀬村江里子）